

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092400102		
法人名	有限会社 野いちご		
事業所名	グループホーム 野の花	ユニット名	
所在地	福岡県筑後市大字前津1471-1		
自己評価作成日	平成28年2月14日	評価結果市町村受理日	平成28年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成28年2月17日	評価確定日	平成28年3月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様に四季折々の季節に応じた行事を職員と一緒に楽しんで頂きながら、田畑にかこまれた穏やかな土地で日々の生活を共にゆっくりと過ごして頂きたいと考えています。また御家族様にも安心して大切な御家族が入居して頂けますように誠実にそして日々、研鑽を重ねながらケアを行っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム“野の花”は開設から3年目を迎える。ホームの周辺はブドウや梨、お茶畑が広がり、自然豊かな環境である。ホームの畑で作られた野菜(大根など)と一緒に収穫し、彩り豊かな美味しい食事を楽しんでいる。季節に応じて梅干しやらっきょう、お盆の団子、干し柿等を一緒に作り、ご利用者の経験や知恵、役割が発揮できる環境が作られており、「四季や五感を感じて今を大切に、自分らしい生活を楽しんでいただきたい」という理念の実践に繋げている。毎日2回、長い廊下での歩行訓練も日課であり、歩行時にご利用者の元気な掛け声と笑い声が聞かれている。柳川のさげもんや川下り、八女の藤見、外食(うなぎ)等には全員で参加されており、今後も更に、ご利用者の生活歴や秘めている力を把握し、『今』を大切にしたい取り組みを続けていく予定である。

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフの目のつく所に貼っている。(申し送りノート、玄関)	毎日の申し送り時に理念を唱和している。職員は四季や五感を感じ、今を大切に自分らしく生活して頂くための支援を続けている。旬の食材で作られた食事や四季の行事、外出などを楽しむ機会が作られ、ご利用者は家庭的な雰囲気の中で過ごされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会、運営推進会議への参加して頂いた。	開設前から地域の挨拶回りを続けてこられた。町内会に入り、グランドゴルフや道路愛護にも参加している。“野の花新聞”を回覧板に入れて頂き、敬老会の呼びかけに地域の方も参加して下さい、ボランティアによる“ひよっこ踊り”や三味線、マジック等を披露して下さい。	認知症サポーター養成の講師研修を2人の職員が受講し、今後は地域の方向けの研修をホーム内で開催できればと考えている。子ども達との交流も含めて地域の方が集える機会を増やしていく予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	野の花新聞を回覧板に入れて頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告、意見交換、質疑応答行っている。	ホーム運営や取り組みへのアドバイスを頂いている。「足を伸ばせるスペースがあれば・・・」ホームの看板設置や花壇整備等の意見を頂き、日々の生活に取り入れている。敬老会の後の会議には家族も参加して下さいっており、今後も家族が参加しやすい方法を検討する予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、敬老会に参加して頂いた。地域包括支援センター主催の勉強会への参加している。	運営推進会議には市や地域包括の職員が参加して下さい。介護保険の制度改正の説明をして下さったり、マイナンバー等の相談にも快く応じて頂いている。ホームの敬老会にも参加して頂き、地域の方の「ひよっこ踊り」を一緒に楽しんで下さった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	所在確認を確実にやっている。また声掛けを工夫してやっている。	身体拘束の勉強を行い、職員の意識を高めている。ご利用者の体調の変化やリスクが発生した場合は原因分析し、家族とも協力しながら、最適な方法を検討している。感情が不安定な時なども寄り添いを続け、想いを傾聴し、安心して頂けるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会実施。資料をファイルしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について勉強会を実施。主任が研修に参加した。	開設時に権利擁護に関する職員研修を行い、27年1月にも全体会議で勉強会が行われた。家族には入居時に制度の説明を行い、家族背景の確認も続けている。制度を利用する方もおられ、後見人との話し合いが行われている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、変更時は、必ず御家族に説明し、また質問、意見等あれば、その都度説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、推進会議等で、意見を出して頂き、職員会議にて、話し合いをしている。	敬老会や誕生日会の時などに家族と集う機会が作られている。面会時や毎月の手紙で暮らしぶりや健康状態を報告し、家族の思いを伺うように努めている。「玄関前に花が咲いていた方がいい」等の意見を頂き、花を植える取り組みを続けている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議での意見交換。普段から、各スタッフから意見を聞いている。	毎月の行事担当や職員がアイデアを出し合い、日々の楽しみを増やしている。季節行事を楽しまれ、柳川の川下り等にも行かれている。専務やホーム長等との個人面談もあり、職員同士の助け合いも日常で、日々の業務の中で意見を伝えやすい環境が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	公休希望を聞くことにより、子育て支援や資格取得に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	そのスタッフの状況に応じ、勤務体制を整えている。新しく入られたスタッフには、マンツーマンで指導を行っている。	男女の職員が勤務し、年齢層も幅広く勤務している。「レクが得意」「丁寧な対応」「食事作りが得意」「ケアセラピーができる」等、職員個々の能力を引き出し、職員の家庭環境や体調等も配慮し、勤務調整している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月の職員会議や日常生活での気づきがあれば、話し合い、各入居者様に応じたケア方法を実地している。	介護保険法の「尊厳と自立」の視点を基に、ご利用者の能力を見極め、日々の関わりを大切にしている。専務や主任は、職員が心にゆとりを持ち、日々「待つケア」を行えるように職員に声かけしており、職員会議の時に言葉遣い等の再確認が行われている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム部会や研修への参加。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会への参加。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人や御家族、前施設の職員さんに尋ねている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていること、要望等お聞きして、介護支援専門員が、ケアプランに反映している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員が行っており、全スタッフに周知している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の残存機能に応じて、できることはして頂いている。(料理や掃除、洗濯物など、職員と一緒に)		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、手書きの手紙にて近況報告をしたり、面会どきに話をしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅への送迎。面会にいつでも来ていただけるような雰囲気づくり。	生活歴や昔の遊び(毬遊び、お手玉遊び等)を教えて頂いたり、ドライブや買物の時などに馴染みの場所を教えて頂いている。馴染みの美容室に行かれたり、自宅の送迎も職員が行っている。家族や友人もホームに来て下さり、ゆっくり過ごされている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士で座っていただいたり、ゲーム等の交流出来る場を作っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族から相談があれば対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく、ご本人の好きなようにすごしていただいている。本人の意向があれば、それを職員へ伝え対応している。	会話好きな方が多く、昔食べていた“すいとん”等の話をして下さり、家族からも生活歴などを教えて頂いている。日々の要望を把握し、外出などにお連れしており、意思疎通が困難な方も表情を観察し、発する言葉を丁寧に聞き取り、思いの把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や御家族、前施設の職員に尋ね、情報を得ている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何かあれば、職員会議や朝の申し送りに出して話し合いをしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議にて、全職員で検討している。何か気づきなどあれば、その都度、介護支援専門員や職員に報告している。	アセスメントは3か月ごとに行い、変化は赤字で記入している。リハビリの視点を大切にしており、「もっと歩かせてほしい」「下肢筋力の維持をしてほしい」等の家族の要望も伺い、介護計画に盛り込んでいる。近所のスーパーに職員と一緒に行かれている。	今後も生活歴の記録を増やし、認知能力や判断能力の変化も丁寧に把握する予定である。行動障害の原因分析も続けており、アセスメントに記録すると共に、日課表の中に「できること」も追加する予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録への記入。朝・夕での申し送りでの伝達。大事な点は、申し送りノートへ記入。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や面会等、ご本人や御家族の要望に応じて制限なく対応。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出や買い物等支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・御家族が希望する医療機関を利用していただいている。	月1～2回の往診を受けており、家族が受診介助をされた時も含め、受診結果を共有している。基礎疾患を持っている方もおられ、水分制限等の指示を医師から頂いている。職員の観察力も高く、異常の早期発見、早期対応に繋げている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変があれば、その都度看護師へ報告し、こまめな情報共有をしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	電話での情報交換をおこない、職員が様子見に伺ったりして、医療機関との協力体制をとっている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	希望があれば、看取りを行い支援できる体制を作っている。	入居時に終末期についての説明を行い、入居後も体調の変化に応じて意向の確認を行っている。主治医や関係機関との連携、家族の協力を頂きながらの終末期ケアであることの同意を頂いており、ケアの提供を行う体制を整えている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練時、救命救急の講習をしていただいている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実地している。	ホーム周辺の浸水対策で敷地全体を地上げしている。年2回の訓練は運営推進会議の時にいき、市の職員、地域の方、消防署も参加して下さっている。建物はオール電化で、発電機や卓上コンロ等も準備している。井戸水も利用でき、系列施設の応援体制も整えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ、入浴時は、必ずドアを閉めて対応。日頃から言葉遣いには注意している。	トイレのドアは必ず閉めている。意思決定も大切にしており、ご本人の着たい洋服等も尋ねている。人生の大先輩であり、言葉遣いにも配慮し、常に丁寧語で会話するように努めている。職員同士で注意し合える環境も作られている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく、ご本人の希望を聞いている。(洋服選びやオヤツに飲む飲み物をご自分で決めていただいている。)		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿って支援するように心がけているが、職員が業務に追われているときは対応できてない時もある。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る方は、整髪や着替えをしていただいている。又、外出行事の際は、お化粧を楽しんでいただいている。近々にお化粧の勉強会に参加する予定。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様にもお手伝いをしていただいている。(混ぜる、つぎ分け等)	7品目の料理が並び、彩りも奇麗である。「だご汁」等も好評で、旬の食材を採り入れている。買物や下ごしらえ、盛り付け、下膳、食器洗い等を手伝って下さり、クリスマスはハイキングを楽しまれた。干し柿作りやらっきょ作り等も一緒に行い、畑で大根の収穫もして下さっている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合わせた量や形態で提供している。又、水分が足りない方は甘いものにしてみたりゼリーに変えて提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る所はしていただき、最後仕上げを職員が行っている。口腔内の観察。1日3回声掛け・付き添いにて必ずしていただいている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に合わせて、時間の調節、対応している。	トイレでの排泄を大切にしており、下着を着用する方もおられる。ご利用者個々の排泄パターンを把握し、個別の誘導でパッドの枚数が減ったり、パッドが取れる方もおられる。自立支援の視点を大切にされており、理念にある「あきらめない」ケアを続けている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便マイナス3日で、起床時きな粉豆乳の提供。主治医への報告・相談行い指示にて薬の服用。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員が曜日は決めてしまっているが、拒否のある方は、日にちや時間、職員を変えて対応。	ご本人の希望に応じて入浴をして頂いている。入浴時は職員との会話を楽しまれ、歌も聞かれ、柚子湯等も楽しまれている。入浴拒否がある方は声かけのタイミングに配慮したり、気分転換に温泉にお連れしている。赤色の手すりは見えやすく、転倒防止に活かされている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人希望や、その時の状況に合わせて居室やリビングソファーにて休んでいただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事表を活用し把握に努めているが、完璧ではなく看護師に頼る事が多い。頻回に目を通し全職員が理解できるよう努めていく。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションや、その方の好きなことをしていただいたり、お手伝いをさせていただくことにより役割の支援をしている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族と外出される方も居るが、普段あまり外出をされない方を買物等に付き合っていたり、外の畑まで出て収穫したりして気分転換している。	ホーム周辺の散歩をされている。水田神宮の初詣に行かれたり、四季折々の花見(桜や藤の花等)や柳川のさげもん見学、べんがら村のバイキング、八女伝統工芸館、外食(鰻など)、南関いきいき村、柳川の川下りなどにもお連れし、買い物も一緒に行かれている。外出好きな方が多く、楽しい思い出が増えている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所でお預かりし(本人様希望)ご本人が必要なときは言って頂き、使っていただくようにしている。又、使った後も一緒に残高を確認している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状の作成。電話したいとの希望があれば、職員が御家族に電話し変わっていただいたり、面会をお願いをしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活導線上に危険物を置かないようにしている。季節に合わせたものの掲示や花を飾っている。	リビングは広く、温湿度の調節も続けており、日に3回は掃除をしている。レクリエーションの時に季節の飾りを作成したり、小規模まで続く長い廊下を活用し、歩行訓練も日課となっている。ソファもあり、ご利用者同士でゆったりと団欒されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士で窓側に座られ日光浴をされたり、ソファで過ごされたり自由に過ごしていただいている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた物を持ってきていただき、ご本人が使いやすいように配置している。	26年3月の入居時は、ご利用者にお好みの居室を選んで頂いた。初詣で購入した水天宮のお守りを部屋に飾られたり、タンスや洋服、テレビ等を持ち込まれている。趣味の編み物をされる方もおられ、写真を飾り、お位牌にお水をお供えする方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方に応じて、お手伝いや作業をいただいている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		